

図書館だより

No. 33

令和8年2月3日発行
函館工業高等専門学校



～昨年4月、第1回図書委員会会議にて～

目次

巻頭エッセイ「図書館の素晴らしさ」	1
学生の読書感想文	2・3
マレーシア国立図書館	3
退職教員 本にまつわるエッセイ	4
新任教員からのおすすめ本	4・5
学生図書委員会の活動報告①、②	6
学生図書委員会の活動報告③	7
本校教員執筆図書紹介	8
学年・学科別利用状況	8
編集後記	8

図書館の素晴らしさ

図書館長 菊池 幸恵

図書館とは、不思議な空間だと思います。函館高専図書館をはじめ多くの図書館がパブリックに建てられた空間であり、いろいろな立場の人たちが利用でき、多くの蔵書の中からプライベートに読みたい本に出会える空間でもあり、友人と一緒に勉強や課題に取り組むことができる空間でもあるわけです。冷暖房が効いていて清潔で静かな空間で過ごすことができながら、それでも利用は原則無料です。性善説にたって、期限までに返却してもらう前提で蔵書等の貸し出しも原則無料でしてくれます。図書館とは紀元前7世紀頃から存在していると言われます。我が国においては、奈良時代まで遡るそうです。それほど太古の昔から、本には大事なことが記され、そこから学ぶ知識が重要だと認識され、保存し受け継いで、それを広く公開し、そこで得た知識が我々の営みや技術を向上させ、現代の社会があるわけです。そのような存在が他にあるのでしょうか？

思い越せば、私が図書館を好きになったのも、本を読むようになったのも、小学校の図書館がきっかけだったと思います。「シャーロック・ホームズ」シリ

ーズにはまった小学生の私は、借りた図書を読み終えたら、翌日の放課後にまた図書館に行つては、なにを借りようかと幸せな悩みタイムを味わいました。まずは表紙で選び、手に取り、冒頭の数ページを試し読みして気に入ったら小脇に抱え、貸し出し冊数の上限があるから、その抱えた数冊の候補の中からさらに厳選する、その時のワクワク感や苦渋の決断感は忘れられません。

図書館は読みたい本や必要な本に出会える空間です。函館高専図書館の蔵書は約6万冊あります。大学図書館ほど多くはありませんが、全学科・コースの専門書も充実し、校長先生の熱い著書もあり、大ベストセラーの話題の小説や漫画もあります。もし、読みたい本が図書館になければぜひリクエストしてください。もちろん、本を読まずに、勉強や課題をしても、目的もなくゆっくり過ごしてもらっても構いません。でも、本を読みたい人も勉強したい人もゆっくり過ごしたい人も、図書館というのは、多くの蔵書に囲まれ皆が等しく静かに過ごせる贅沢な知の空間であるということは覚えておいてください。

学生の読書感想文

泊先生の日本語コミュニケーションⅡの授業で、ブックレビュー高評価本の読書感想文です。



2年生産システム工学科 電気電子コース 田所 寛翔

『国家と教養』 著者：藤原 正彦 (著) 出版社：新潮社



文化芸術などの人文教養は、今日の社会で軽んじられる風潮が散見されます。理由としては、「役に立たない」。論理重視の世の中でそんなものなくても生きていけるから。との具合でしょう。本書はその論理主義に一石を投じるものです。

本書を一部抜粋しますと、論理には出発点が必要であり、その出発点とは人の内面から湧き出るもののため、その内面が成り立っていないとそこから導かれる結論も成り立ちません。論理は情緒があって成り

立つのです。その情緒を形作るのが、その人の教養です。これは唯の知識の話ではなく、どんな作品に触れ、どう感動したのか。これで人の内面は形作られます。

広大な田畑を見たとき、経済思考の人は「こんなに土地があるなら少し開発してもよい」と、文化思考の人は「美しい自然があってこそ、美しい日本がある」と考えます。考え方一つで結論は変わります。知識を以て芯を作ることこそ、「論理に生きる」私たちに必要なことです。

2年生産システム工学科 情報コース 荒 咲太郎

『空想科学読本 ポケモン空想科学読本』

著者：柳田 理科雄 (著) 姫野 かげまる (絵)
出版社：オーバーラップ



「マンガやアニメの『なぜ?』を科学で解明!」がキャッチコピーである『空想科学読本』は読んだことがある人も多いのではないだろうか。題材はもともとSFや特撮であったが今ではジブリやジャンプ系など多岐にわたる。

今回私が読んだ「ポケモン空想科学読本」はポケモンの生態や能力に物理や生物などの学問と環境問題などを絡めながら、もし現実ならどうなるのかを空想する本で、時にはマッハ 8600 や視力 15、

35 億 t のキック、毎秒 2 万 2 千発のパンチなどというありえない数字が出てくることもある。論理的かつユーモラスに疑問や興味を誘い、それらを解決していくことで楽しく理科を、そして題材となっている作品やキャラクターのことを学び、より好きになる。

そんな『空想科学読本』シリーズは、もちろんまだ読んでいない人にも読んでほしいが、昔読んだことがある人に、知識が増えた今こそ読み返してほしいシリーズである。

2年生産システム工学科 情報コース 細川 想

『元気で大きいアメリカの赤ちゃん』

著者：パドニッツ, ジュディ (著) 岸本 佐知子 (訳)
出版社：文藝春秋



疲れた日にみる夢はいつもおかしい。リュックを背負えば空を飛べるし、遅刻しそうときは躊躇なく2階の窓から飛び降りる。でも起きた後の「なんだったんだ、あれ…」という感覚はそう長くは続かない。

本書は、読んでいる間ずっとその感覚を与え続ける。起きているのに、手元では夢のようなあり得ない世界が、おかしげもなく淡々と進んでいく。普通に生きていけば、絶対に味わうことのできない体験だ。この短編集は著者の故郷アメリカを背景にした作品が

多い。豊かで夢にあふれ貧しさとは無縁…そんな気がする土地と、それに焦がれて必死に身を削る人々。華々しきの影に霞む闇の部分に、様々な人物を通してスポットライトをあてている。憧れのアメリカのイメージと実際のアメリカとの歪みを、先に述べた白昼夢のような感覚と重ね合わせているのだろう。

短編集なので休み時間で完結する。が、独特な後味はきっと何日も残るはず。

とにかく1話、読んでほしい。

2025年度 学生希望図書

図書館では学生の皆さんのニーズにお応えするため、図書のリクエストを募集しています。どんどん活用してくださいね♪



『日本人はなぜ英語ができないか』

著者：鈴木 孝夫 (著)

出版社：岩波書店



はじめに、私はこの本を読んで「日本の政治や義務教育に対して強く意見しているな」と感じました。

例を挙げると、「今の日本の英語学習は『身の回り』の出来事を英語で読んでしまうことがいけない」ということにフォーカスして話していて、そこに感心しました。

この本で作者が言いたいことは、「英語は英語の文化についてのことを話すべきで、日本の文化のことを英語で話しても何も得られるものがない」ということで

はないかと私は考えました。

なぜなら、身の回りについての話題ばかりだと必然的に出てくる単語に限られてしまい、英語が上達しないのではないかと感じたからです。

この本を読み通して、自分も英語の勉強の仕方を少し変えた方が将来に生きるのではないかと思います。高専はグローバルな学校なので、これからも英語を活用できるようにしていきたいです。

2 年生産社会基盤工学科 花村 諒

『5秒後に意外な結末 ミダス王の黄金の指先』

著者：桃戸ハル (編著) usi (絵)

出版社：Gakken



この本を読んだ先には必ず「意外な結末」が待っている、超短編小説です。お話の数は 100 話あり、すべて全く異なる結末を迎えるお話が詰まっています。

この本の良いところは 1 話が 2 ページしかなく本を読むことが苦手な人でもスラスラ読めてしまうところです。一つ一つハッと驚きがつまっているため、ページをめくるワクワクが止まりません。1 話読むのに 5 秒も感じないスムーズさと爽快感が読者をどんどん本に引き込んでくれます。話のボリュームもちょうどよく、読み

終わった後には、もう終わり？と思わず声が出るほどです。

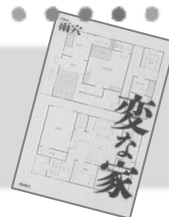
また 100 話の中にはリンクする話もあり、このお話がここにも現われるのか！という感情に、作者の工夫がよく感じられます。言葉だけでは現わせない魅力が詰まっている一冊です。騙されたと思って読めばもう抜け出せません。

これをきっかけにあなたの 5 秒をこの一冊に。あなたにこの 100 話の「意外な結末」は見抜けませんか。

3 年物質環境工学科 梶田 昇希

『変な家』

著者：雨穴 (著) 出版社：飛鳥新社



私が紹介したい本は「変な家」です。

筆者は雨穴さんという方で、Youtube でホラー系の動画投稿者としても有名な方です。この小説は雨穴さんの視点で物語が進んでいきます。

知人から送られたとある中古一軒家の間取り図、そこには謎の空間などの奇妙な違和感があり、その謎を追うにつれ間取りの理由や元住人の正体が解明されていく。というのがこの本のあらすじです。

この本はほとんどがセリフのため

サクッと読みやすく、話がどんどん進むときの不気味さとゾクゾク感、そして登場人物の推理力が高いためか話の進行にスピード感があり、あっという間に読み終わってしまいました。

読み終わった後の不安が残る何とも言えない雰囲気も不気味で、記憶に残る小説になると思います。

マレーシア国立図書館

マレーシア国立図書館は、1966 年に首都クアラルンプールで設立されました。

当初より、国内外の重要な資料の収集や保存と、国民への幅広い知識提供を使命としています。国立図書館の建物は 1986 年に完成し、イスラム建築を取り入れた独特のデザインが特徴で、青いタイルの屋根はマレーシア文化を象徴します。

多民族国家の特性を反映し、マレー語、英語、中国語、タミル語など多言語の書籍を総計 400 万冊以上所蔵しています。また、貴重なマレー写本を含む古文書の収集・保存を通じて、国の文化的遺産保護に

3 年 生産システム工学科 電気電子コース

ユ(TING XIANG YEU) / 留学生(マレーシア出身)

重要な役割を担っています。

さらに、国民の読書習慣を促進するため、子供向けのプログラムや移動図書館サービスで地方へのアクセスを拡大。さらにデジタル図書館サービスの拡充により、世界中の利用者がインターネットを通じて資料を閲覧できます。

このように、知識の普及と文化遺産の保存を担う中心的な機関として、国立図書館は教育と社会発展に大きく貢献し、今後も国の学問の発展を支え続けるでしょう。



退職教員 本にまつわるエッセイ



一般系
白田 悦之

「名作は色褪せない」



かなり以前のこと、アメリカ人の友人夫婦らと読書会を何度か開いたことがあった。読んだ作品の一つに、Jostein Gaarder の The Solitaire Mystery がある。12 歳の少年 Hans が父と共に母を探してノルウェーから旅に出る幻想小説だ。道中、親子の対話を通して哲学的な思索が織り込まれていく。旅の途中、Hans は不思議な小人から虫眼鏡を受け取り、立ち寄ったパン屋で、パンの中から極小の本を発見する。そこには、トランプのカードたちが人間の姿をし、厳格な秩序の中で同じ行動を繰り返して暮らす魔法の島の物語が描かれていた。無自覚に日々を繰り返すカードたち。目覚めた意識を持ち哲学的に生きるジョーカー。この対比は人間社会の象徴であ

り、「どちらの生き方を選びますか」と問いかけてくるようであった。この作品を改めて振り返ると、AI が台頭する現代でより深い意味を帯びてくる。Gaarder が 1990 年に訴えた問い続ける思考の重要性は、30 年以上経った今も色褪せない。その予言的洞察に改めて驚きと新鮮さを感じる今日この頃である。



♣ ♡ ♠
タイトル：『カードミステリー
失われた魔法の島』
著者名：ヨースタイン ゴルデル
出版社：徳間書店

新任教員からのおすすめ本



校長
清水 一道

タイトル：『博士の愛した数式』
著者名：小川洋子
出版社：新潮社



学生の皆さん、勉強は順調ですか。

毎日、専門分野の難しい課題や演習に追われ、頭の中は数式やコードでいっぱいかもしれません。そんな皆さんに、少し休憩して手に取ってほしい本があります。それが、小川洋子さんの小説『博士の愛した数式』です。

数学が苦手な人向けの入門書ではありません。むしろ、数学を深く学んでいるからこそ、この物語は心に響くはず。主人公は、交通事故で記憶が 80 分しか持たない天才数学者「博士」。家政婦として派遣された女性は、彼の独特な世界に戸惑いながらも、博士が語る美しい数式に魅了されていきます。

この小説の大きな魅力は、数学を単なる「記号の羅列」ではなく、感情や温かさを伴うものとして描いている点です。博士にとって、友愛数や完全数、オイラーの公式といった数式は、人と心を通わせるための言葉なのです。彼は野球帽をかぶった家政婦の息子を「ルート」と名付け、数学を使って彼に愛情を伝えます。

「数学なんて、専門分野の道具にすぎない」そう考えている人もいるかもしれませんが。しかし、この物語を読むと、数学が持つ普遍的な美しさや、それが人と人をつなぐ力を持っていることに気づかされます。論理と感情、知性と温かさ。一見相反するよう見えるものが、この小説の中では見事に調和しています。

高専生である皆さんは、まさに論理と知識を深く探究する立場にいます。だからこそ、この本が描く「数学の温かい側面」は、皆さんの心に深く響くでしょう。

将来、社会に出て何らかの形で専門知識を活かすとき、きっと『博士の愛した数式』で感じた数学の温かさが、皆さんの仕事や人生を豊かにしてくれるはず。す。

この本は、数学の美しさを教えてくれるだけでなく、人が誰かを愛し、慈しむことの尊さを静かに語りかけてくれます。80 分という限られた時間の中で紡がれる、博士、家政婦、そしてルートの温かい交流の物語を、ぜひ皆さんの目で確かめてみてください。



生産システム工学科
機械コース

袴田 翔

タイトル : 『機械学習入門 ボルツマン機械学習から
深層学習まで』

著者名 : 宇都宮輝夫
出版社 : 勁草書房



この本に出会ったのは大学3年生のインターンシップです。インターン先では機械学習を用いた製品開発を行っており、私は画像から物体を仕分けるプログラム開発を担うことになりました。大学では人工知能の講義やプログラミング科目を履修していたため、企業で実践的に活用できると考えておりました。ところが、大学で学んだことを全く活かせず、大迷惑をかける結果となりました。具体的には、インターン先の開発機器を破壊する。自身が学んできたことを説明でき

ない等々。最も痛感したことは、講義を受けただけでわかった気になっていたことでした。そんな不甲斐ない私に企業の方は「この本で勉強してね」と勉強する機会を設けてくれました。この本がもっと勉強しなければと思い立たせるきっかけになりました。

内容は、機械学習の基礎と深層学習を初心者向けの言葉とイラストで説明しています。高専にもありますので、興味がある学生はぜひ。



社会基盤工学科
小暮 悠

タイトル : 『キッチン』
著者名 : 吉本ばなな
出版社 : 新潮社



学生時代の本の思い出といえば、高校生の頃、体調を崩し保健室登校していた時期がありました。体力がなくて教室にいられず、保健室で横になってずっと本を読んでいた。誰もいない授業時間に図書室に行き、村上春樹や村上龍の小説を片っ端から借りるので、「明るい本も読んだら？」と司書さんは呆れていましたが、今思えば、物語に潜っていく時間と、いつも通り接してくれる大人がいたことに救われた気がします。

吉本ばななのデビュー作『キッチン』は、そんな10代の頃に実家の本棚で見つけ、それからずっと傍にある本です。孤独や喪失に隣り合うあたたかさ、大切な人にカツ丼を食べさせたくて深夜にタクシーを走らせるその瞬間の切実さに、いつ読んでも心を動かされます。1989年公開の劇場版は函館で撮影されました。かなり変な映画ですが、どこか浮世離れた函館の街の姿に、わたしはこの風景の延長線上に暮らしているのか、と不思議な気持ちになります。



一般系
高嶋 一平

タイトル : 『ジェノサイド』
著者名 : 高野和明
出版社 : 角川書店



現人類よりも高い知能を持つ新人類が誕生した場合に現人類は淘汰される。本小説では、この新人類のジェノサイドを目指す人々と新人類に協力する人々との間での攻防を描きます。

科学者の書いた歴史書や失敗/成功秘話など読んでほしい本や、10-20代での人格形成の大事な時期に読んでほしい本もあったので迷いましたが、化学に関連しつつ内容も面白い本、できれば小説が良いと考えて選びました。

ストーリー内にはアフリカの社会問題など多様な知識供給がされていて勉強になるだけでなく、日本の大学生が細胞受容体に働く薬を有機合成する話が入っているので特筆したいです。この著者が北里大学で熱心に取材したためでしょうか、現実感のある研究現場の描写がされています。

上述したようにこの本は内容も面白いので、ぜひ楽しみながら読んで、化学研究とはどんな感じなのか？に触れてほしいと思っています。



一般系
森 康平

タイトル : 『ジオ・パル NEO 第2版』
著者名 : 野間 晴雄/香川 貴志 他編著
出版社 : 海青社



みなさんの多くは、技術者になるという目標を掲げ勉学に励んでいると思います。ぜひみなさんには、地域の課題を解決できる技術者になって欲しいです。そのために私は、海青社が発行している『ジオ・パル NEO 第2版』という本を紹介します。

地域の課題を解決する上で、まずは、その課題を知る必要があります。そして、検討する方法としては、聞き取り調査や質問紙調査などが考えられます。

この本では、そうした調査の進め方や実施方法などについて書かれています。また調査から得られたオリジナルデータをどのようにまとめるのかまで書かれているためとても参考になります。

みなさんも、技術者になる前に、聞き取り調査や質問紙調査などの手法を体験して、地域の課題を探すことにチャレンジしてみませんか？きっとこの経験は就職してから役立つと思います。

学生図書委員会の活動報告！

活動報告① ブックハンティング

☆ブックハンティングとは図書館に置いて欲しい本を書店で実際に見て選ぶという取り組みです。



令和7年6月28日(土)、文教堂函館昭和店において開催。
今年度は15名の図書委員が参加し、単行本を中心に計64冊の本を選書。購入した本は手作りのPOPカードを添えて10月に展示し、貸出を行いました。
来年度の選書本もお楽しみに♪



活動報告② 班活動

☆今年度は図書委員の人数が多かったため、二つの班に分かれてそれぞれ活動を行いました！

企画展示班

☆☆☆班リーダーよりコメント☆☆☆

僕は、図書委員会に所属して今年で三年目になるのですが、本が好きな仲間たちと一緒に何かに取り組むことができるというのは、図書委員会の楽しみの一つだと思います。ぜひ皆さんも図書館に足を運んでみてください。その上で、図書委員会にも興味を持っていたら嬉しいです。

(3SM 佐々木 省吾)



広報班

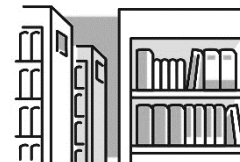
☆☆☆広報班リーダーよりコメント☆☆☆

広報班の活動は大まかに「本を読みたい！」と思ってもらえるような掲示物を作ることと本の紹介文を書くことでした。掲示物の作成ではみんなで意見を出し合いながら協力して作成することができました。本の紹介文では読んだ本の紹介文を書くことでその本の魅力をさらに知ることができました。一年間、広報班の活動をしてみて、みんなで楽しみながら本について考え、話し合うという経験ができてよかったです。

(企画展示班リーダー 3SM 野口 倅聖)



活動報告③ 委員からのおすすめ図書紹介



☆図書委員5名に、図書館にある本の中からおすすめの図書を選んでもらいました！

『ケルトの水脈』原聖（著）講談社

誰もが知るローマ文明やキリスト教に「上書き」されていったケルトが、現代の「ブーム」にいたるまで、地下水脈のように受け継がれてきた過程が詳細に描かれています。特にアイルランド中心のイメージが強いケルトを、著者の専門である大陸のブルターニュから考察することに驚かされました。

1年4組 成田 蒼介

『魔王』伊坂幸太郎（著）講談社

この小説は、社会の理不尽や権力の暴走に立ち向かう兄弟の姿を描いた物語です。現実社会への鋭い風刺と、信念を貫くことの難しさが強く心に残りました。人が「正義」を信じ続ける意味を深く考えさせられる作品でした。登場人物それぞれの選択にも重みを感じました。

1年5組 手塚 幸成

『学校で教えない性教育の本』河野美香（著）筑摩書房

この本を選んだ理由は、若い世代で中絶手術を受ける人が近年急増しているという記事を読み、この場を借りて高専全体に性についての知識を身につけてほしいと思ったからです。この本は学生等の質問にプロが答えるQ&A方式で特に読みやすいです。すべて、生きていくうえで本当に必要な知識です。知らない方が恥ずかしい、という考えが根付いていくことを願っています。

2年物質環境工学科 中村 紅葉

『じつは危ない食べもの』南清貴（著）ワニ・プラス

この本を読んで、毎日食べているものについて深く考えた。スーパーの食品には多くの添加物が使われていると知り驚いた。おいしければいいと思っていたが、健康を害する危険もあると知り怖くなった。「食べものは命そのもの」という言葉が心に残り、これからは自然な食材を選びたいと思った。

1年5組 遠藤 詠太

『玩具修理者』小林泰三（著）角川書店

喫茶店で男女が、昔の思い出を語る。小さい頃、近所に住んでいた玩具修理者『ようぐそうとほうとふ』。人形から複雑なゲームソフトまで、持ち込めばなんでも直してくれた。ばらばらにしてあつという間に組み立てる。女が踏み殺してしまった猫も、直してくれた。女が死なせてしまった弟も…。一体何者なのか。「玩具修理者」含むホラー短編小説。

2年生産システム工学科情報コース 澤田 里杏



NITH.LIB6314

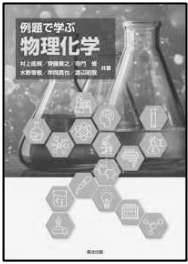
イベント情報をはじめ、
おすすめ本や図書館からのお知らせなどは、
Instagram やホームページをご覧ください！



函館高専図書館

本校教員執筆図書紹介

寺門 修(物質環境工学科) 水野章敏(物質環境工学科)



『例題で学ぶ 物理化学』
村上能規、齊藤貴之、寺門修、水野章敏、岸岡真也、渡辺昭敬(著)
(寺門先生担当…2章、水野先生担当…3章)

物理化学は、「化学現象を物理の視点で理解し、使いこなす」ための学問です。物質の構造や安定性、エネルギー、反応の速さといったテーマは、材料開発をはじめ、環境・エネルギー技術など幅広い分野に直結します。本書は、その物理化学を例題を通して学び、知識を「自分で使える力」として身につけるために作られたテキストです。
本文 200 ページのうち約 1/3 を本校教員が執筆しており、授業内容とも対応しています。

下郡 啓夫(一般系)



『総合する思考—多重知能理論はいかにしてつくられてきたのか』
ハワード・ガードナー(著)、上條 雅雄【日本語版監修】 有賀 三夏、下郡 啓夫【訳】(明石書店)

私の Thought Partner の一人である多重知能理論の提唱者、ハワード・ガードナー博士。博士が Good Work 等その後の研究を経てたどり着いた答えが、異なる知識を結びつけ意味あるものへと紡ぐ「総合する思考」でした。その探究プロセスであるご自身の半生が本書に凝縮されています。日本に多くの可能性を感じている博士が見据える思考の本質とは何か、本書を通して一緒に考えてみませんか。

学年・学科別図書館利用状況

学年・学科別 貸出冊数 (2025年4月1日-12月31日)

組	1組	2組	3組	4組	5組				学年別計	
学年	1年	47	85	35	46	70			283	
学年	学科	生産システム工学科			物質環境工学科	社会基盤工学科	生産システム工学専攻	物質環境工学専攻	社会基盤工学専攻	学年別計
		機械コース	電気電子コース	情報コース						
2年	66	83	267	58	55				529	
3年	37	53	65	116	104				375	
4年	29	47	93	119	50				338	
5年	28	25	121	242	22				438	
専攻科1年						33	85	2	120	
専攻科2年						72	0	2	74	

- ・クラス別平均貸出冊数は70冊でした。
 - ・貸出冊数が一番多かったクラスは2年生産システム工学科情報コースで、232冊でした。(総計) 2,157
- たくさん借りてくれてありがとう!



今年も図書館だよりを無事発行することができました。執筆者の皆様にご心よりお礼申し上げます。人間には興味のある本やニュース、SNS等ばかりを見る(そして視野が狭まる)という習性があります。ご多分に漏れず私も興味のある本ばかりいつも読んでいた訳ですが、執筆者の皆様から寄せられたお薦め本に対する熱い紹介文に感化され、普段はあまり読まない分野の本も読んでみようかなという気持ちになりました。(東海林 智也 記)



図書館だより No.33

独立行政法人 国立高等専門学校機構
函館工業高等専門学校 図書館

函館市戸倉町 14 番 1 号
TEL 0138-59-6314

(表紙題字：社会基盤工学科教授 平沢 秀之)